

平成31年度全国学力・学習状況調査の結果をふまえた指導改善策

I 調査の概要

1. 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- 上記のような取組みを通して、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査の対象

小学校第6学年・義務教育学校第6学年の児童

3. 調査の内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

4. 調査日時

平成31年4月18日(木)

II 学力調査の結果【小学校・義務教育学校前期課程】

1. 教科に関する調査結果(平均正答率※)

※平均正答率とは、「児童の正答数の平均」÷「設問数」の値を、%で表わしたものです。

| | 国語 | 算数 |
|--------|------|------|
| 全国 | 63.8 | 66.6 |
| 広島県 | 66 | 68 |
| 府中市 | 71 | 69 |
| (南)小学校 | 78 | 73 |

2. 調査結果にみられる特徴と課題及び今後の改善策

【国語】

| 特徴と課題 |
|--|
| ◇話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめることができる。(県+22.6%) ◇目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらか読む。(県+16.2%) ◇すべての項目で無回答がない。 ◆目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く。(50%、県+15.7% 全+21.2%) ◆目的に応じて、質問を工夫する。(55%、県-14.3% 全-12.4%) |

◇…相当数の児童ができている点 ◆…課題のある点

| 改善策 |
|--|
| ・必要な箇所から必要な情報を読み取ることができていないため、授業の中で、読み取る段落を指定し、読み取らせる。 ・接続詞の意図・使い方を理解することができるように、接続詞を言い換える活動を行う。 ・語尾や接続詞に着目して、読む練習をする。 ・必要な箇所から文章を読み取り、まとめる練習をする。 ・条件を満たしているかを確認しながら、文章をまとめる。 ・類似問題に取り組み、問題の解き方を知る。 |

【算数】

| 特徴と課題 |
|--|
| ◇棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取ることができている。(100%) ◇加法と除法の混合した整数と少数の計算をすることができる。(95%) ◆示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を言葉を用いて記述できる。(35%) |

◇…相当数の児童ができている点 ◆…課題のある点

| 改善策 |
|---|
| ・示された除法や乗法の式の意味を理解できていない。 ⇒計算を能率的にするための工夫をすることができるように、数を多面的に見る学習活動に取り組み定着を図る。(授業する側) ⇒計算が簡単になるという数学的な良さに気づき、生活場面や学習で活用できるよう、練習問題に取り組むための時間をドリルタイムなどで設定する。 |

⇒数量の関係を捉えることができるようにするために、数直線や図などに表し、問題場面を把握することができるようにする。(機械的な理解はできているが、その根本が理解できていない。)

⇒国語の側面から見て、結論をかけなかったり、条件を満たせなかったりする解答が多いので、語彙力や文章理解力、回答の仕方等の練習が必要である。

- ・2月の数量関係領域のテストにおいて、通過率80%を目指す。

Ⅲ 学習状況調査の結果

1. 学習状況調査(児童質問紙)の結果にみられる傾向

肯定的な回答の割合が、全国平均値よりも高かった項目

(特に高かった項目は、太字で示している)

- ・毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。(100%)
- ・先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか。(100%)
- ・学級みんなで話し合っ**て**決めたことなどに協力して取り組み、うれしかったことがありますか。(90.0%)
- ・家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。(95.0%)
- ・今住んでいる地域の行事に参加していますか。(100%)
- ・外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思いますか。(85.0%)
- ・朝食を毎日食べていますか。(100%)
- ・将来の夢や目標を持っていますか。(90.0%)
- ・難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。(90.0%)
- ・学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。
- ・学校のきまりを守っていますか。(100%)
- ・いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。(100%)
- ・新聞を読んでいますか。(35.0%)
- ・日本やあなたが住んでいる地域の**こと**について、外国の人にもっと知ってもらいたいと思いますか。(90.0%)
- ・学級活動における学級での話合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると思いますか。(85.0%)
- ・5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。(85.0%)
- ・国語の授業の内容はよく分かりますか。(90.0%)
- ・国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしていますか。(85.0%)
- ・国語の授業で文章や資料を読むとき、目的に応じて、必要な語や文を見つけたり、文章や段落どうしの関係を考えたりしながら読んでいますか。(80.0%)
- ・算数の勉強は好きですか。(75.0%)
- ・算数の勉強は大切だと思いますか。(90.0%)
- ・算数の授業の内容はよく分かりますか。(80.0%)

- ・算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。(95.0%)
- ・算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか。(80.0%)
- ・算数の授業で新しい問題に出会ったとき、それを解いてみたいと思いますか。(80.0%)
- ・算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか。(85.0%)
- ・算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか。(85.0%)
- ・算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか。(90.0%)
- ・今回の算数の問題について、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありましたが、どのように解答しましたか。
→ 全ての書く問題で最後まで回答を書こうと努力した。(100%)

肯定的な回答の割合が、全国平均値よりも低かった項目

(1番・2番共に、低かった項目)

- ・5年生までに受けた授業で、コンピュータなどのICTをどの程度使用しましたか。(10.0%)

(1番を選択した割合が、全国平均よりも低い、2番までを入れると、全国平均を上回っている)

- ・学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。(40.0%)
- ・昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか。(40.0%)
- ・毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。(85.0%)
- ・家の人と学校での出来事について話をしますか。(75.0%)
- ・先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。(95.0%)
- ・学校に行くのは楽しいと思いますか。(95.0%)
- ・地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか。(60.0%)
- ・授業でもっとコンピュータなどのICTを活用したいと思いますか。(85.5%)
- ・あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思いますか。(80.0%)
- ・道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると思いますか。(75.0%)
- ・国語の勉強は大切だと思いますか。(80.0%)

2. 生活習慣・学習環境などに関する改善のポイント

- ・朝は同じくらいの時刻に起きているが、寝る時刻にばらつきがある。
→ 生活習慣の改善を、各家庭に呼びかける。(各種たよりや、学活における指導 等)
- ・学習時間と読書時間との間に相関関係がある。限られた時間の中で、バランスよく学習・読書ができるようにする必要がある。
→ 読書3万冊の取組みを充実させる。
→ 家庭学習において、2時間以上3時間未満の割合が55%のため、読書にあてる時間が減少傾向にある。そこで、学習時間よりも、学習内容の充実を図ることができるよう、家庭において、決められた時刻に学習を始めて終わることができるように呼びかける。
- ・テストの解答時間が十分でないと答えた児童が多い。

- 問題文に線を入れさせたり、問われている内容を瞬時に理解して問題を解くことがけきりよう、繰り返し練習問題を解かせたりする。また、問題に慣れさせる。
- ・地域の行事へ参加する児童の割合は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の項目を合わせると100%であるが、地域のために、自分たちにできることはないか、考えている児童の割合は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」合わせても、60%しかない。
- 総合的な学習の時間において、児童主体で活動できる場を大切にする。また、地域の方の関わり・協力は、当たり前のことではなく、自分たちの生活を支えてくださっていて、大切に、かけがえのないものであると伝え、自分たちに何ができるか、考える機会を意図的に設ける。
- ・パソコンを使った授業にあまり触れていないため、ICTを活用したいという意識が高まりにくい。
- ICTを教育場で活用するための研修を行う。
- 各教室でICTを活用した授業が行える環境を整える。
- 児童自身のICTに対する知識と技能を高める。